木材をもっと使いたい

大和木材株式会社・ヤマトプレカット
代表取締役　吉　崎　　和　穂

当社は，創業以来61年間，旧郡山町で県産材・国産材一筋で頑張っております。

創業当時は，賃挽きや郡内・県内の丸太を購入し，製材していましたが，その内，伐採までするようになり，国有林や民有林など南九州を走り回り，製材した製品を県内はもとより，大阪や東京にも出荷していました。

昭和37年から，屋久杉の加工を始めました。当時，「屋久杉は油が強く，タキモノにもならない」と，言われていましたが，屋久杉の杢目の美しさを生かした建築材を生産して，大阪でも高い評価を受けるようになりました。昭和42年には九州で初めてという長尺スライサーを導入し，屋久杉貼り天井板の普及に努めました。銘木を求め，九州各地を走り回り，一時は台湾桧まで加工しました。昭和52年にはドイツ製7軸モルダーを導入し，床板や壁板の加工も始めました。平成13年には，外国からの安い加工品の輸入や，銘木の枯渇などから，地域に密着した木材加工を目指し，プレカット事業を始め，今日に至っております。

従来，木材を使うことなら何でもやってやろうという社風から，工業技術センター（旧木材工業試験場）には，様々なご指導をいただいてきました。スライサーを導入した時は刃物の研磨角度や材料の投入角度，煮沸処理などをアドバイスいただきながら試行錯誤を繰り返しました。床板の加工を始めると，未乾燥では隙間が生じ，過乾燥では突上げるといった，木材乾燥の難しい問題に突当たりました。その時も，自社製除湿乾燥機の性能確認と性能安定策をご指導頂き，ＪＡＳ認定工場となりました。

その他にも，佐多町（現 南大隅町）に戦後初の木造校舎ができた時は，机も椅子も県産材で作ろうと木工加工機の使い方からご指導頂きました。屋外で使うベンチには耐候性を増す為に樹脂含浸を，化粧コンクリート用型枠作りにＮＣ加工を，小物や化粧パネル作りにレーザ加工の指導も受けました。また，乾燥スケジュールやヤング係数の測定，スパンを飛ばした梁桁の断面寸法を確認する構造計算も教えて頂く等，数えきれないほどの指導を受けました。最近開発した木製3次元遊具「エイトラン」では，より安全性を増す為のデザインや構造を検討いただいています。

以上のように，当社の歴史を振り返ると工業技術センターの重要性が良く分かります。

CO_2削減の大半を木材に求められる今こそ，工業技術センターに木材利用関係の研究開発を推進して頂き，我々の指導に力を注いで頂けるものと期待しています。

会社全景

木製3次元遊具「エイトラン」